

## 1. 研究主題・副主題について

### 確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成

～本校児童に身につけさせたい力の定着へ向けて(2年次;国語科「書くこと」を軸に)～

## 2. 主題設定の理由

### (1) 今日の教育課題および本校の教育目標から

今日、変化の激しいこれからの社会を見据えた時、いかに子どもたちに夢を与え、生きる力をもたせていくか、そして、賢い国家・社会の形成者を育成していくかが課題となってくる。そのため学校現場に求められている教育として、子どもたち自らが自分の将来に向かって意欲的に学ぶ力を身に付けることが挙げられている。

そうした社会情勢をふまえて本校でも「知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図り、児童一人一人のよさや可能性を伸ばす」ことを学校教育目標に掲げ、「心豊かな子」「考え深い子」「たくましい子」「力を合わせる子」の育成をめざしている。

### (2) これまでの研究の経過から

研究に関しては、平成22年度より「生きる力を育む教育活動の創造」に重点をおき、4年間の研究において、「学びを活用する子どもの育成」「コミュニケーションから学びを活用する子どもの育成」「『学び合い』を通して活用力（思考力・判断力・表現力等）を育む学習指導」「主体的に学ぶ子ども」をめざしてきた。これらの研究を通して、自ら学ぶ意欲をもち学習に取り組む主体的な子どもたちの姿も見られるようになってきている。

そこで更なる「確かな学力」定着に向けての取り組みを進めていくためには、本校児童の生活習慣や学力等の実態についての的確に把握し、より実態に即した教育実践へと改善し、実施していくことが有用であると考えた。そこで昨年度は、「確かな学力」の中の「基礎的・基本的な知識や技能」を中心に本校児童の実態に焦点をあてた研究を進めてきた。具体的には、児童の実態把握から見える課題点を洗い出し、本校児童に身につけさせたい力を明確にできるよう調査を中心に行ってきた。そして、これまでの教育実践の見直しや改善プランの検討を通して、子どもたちひとりひとりの実態を見据えた更によりよい教育実践をめざし、3年計画で「確かな学力を身につけること、意欲的に学ぶ子どもを育てること」を目指して研究が始まった。

分析のための資料として用いたものは、平成25年度・26年度の全国学力・学習状況調査（6年）、県の学力把握調査（3・5年）、体力テストにおける生活実態調査などを考察してきた。調査結果の考察に加え、教師の見取りと照らし合わせながら、最終的にブロック毎の国語科・算数科・生活実態の課題点・改善プランを検討してきた。

### (3) 児童の実態から

児童の実態としては、昨年度の研究成果である各種実態調査のまとめから、本校児童には以下のような特徴が見て取れる。

(体力テストにおける生活実態調査から特徴として挙げられる課題点の傾向)

- ・家庭学習の時間が少ない。
- ・テレビ視聴時間（ゲーム使用時間）が長い。
- ・就寝時間が遅い。

(全国学力・学習状況調査，山梨県学力把握調査より国語科に見られる主な課題点の傾向)

#### 低学年

- ①話の内容を的確に捉えて聞く・意識しながら聞くこと。
- ②理由を付けたり、詳しく話したりすること。
- ③読解力。
- ④順序立てて書くこと・正しく書くこと。（句読点や「」の使い方・助詞）

#### 中学年

- ①自分の思ったことや考えを表現すること。
- ②文章の構成を意識して書くこと。主語・述語の関係をはっきりさせたり，接続語を正しく使うことを意識させたりしながら文章を書くこと。
- ③漢字の定着。

#### 高学年

- ①目的や意図，意見とその理由，意見の比較など観点に基づいて整理して書くこと。
- ②段落相互の関係を意識させて要点をまとめること。
- ③既習事項の理解の定着。

これらの分析結果に加え、職員アンケートでも国語科を希望する声が多かったので、今年度からは国語科を中心に研究を進めていくこととした。基礎学力に関しては算数科にも課題はあるが、24年度まで算数科を中心に研究を進めてきたので、今まで手つかずであった国語科に絞って研究を進めていく。

また平成25年度・26年度の山梨県学力把握調査全体の結果を見ても、「書くこと」の問題、記述式の問題に課題があること。「自分の考えや意見の理由となるものや事例など、必要なことを調べて取材すること」に課題があることがわかった。また全国学力・学習状況調査においても、「書くこと」の領域では山梨県の結果として、「調べてわかった事実に対する自分の考えを理由や根拠を明確にして書くこと」を問う問題の正答率は大きな課題となっている。

よってこれらの実態からも、本校の研究領域を国語科の「書くこと」に絞り、力を入れて授業改善を図ることは妥当であると考え、本主題を設定した。

### 3. 研究の基本的な考え

今後指導主事を招聘しながら基礎研究を重ねていくが、研究主題に関わる以下の2点について、研究の基本的な考えとしていく。

#### (1) 確かな学力のとらえ（国語科・書くことにおける本校の捉え）とは

どの状態を持って確かな学力がついたとするかを、本校なりに考え研究の指標とする。

【学習指導要領では以下の考えが示されている】

「確かな学力」は、①「**基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けること**」に加え、②「**知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現すること**」③「**学習に取り組む意欲をもつこと**」により、獲得できる力である。

(すぐにわかる学習指導要領のポイントより)

これら確かな学力の①②③を国語科「書くこと」の指導に当てはめ、大まかな例を挙げてみる。

##### ①「基礎的な知識・技能」

表現に必要な語彙を獲得している・文法がわかる・文章の構成がわかる。

##### ②「知識・技能を活用する（活用力）」

目的に応じたパンフレットを作って紹介する・問題点を訴えるために文章を「書く」際、既習事項を生かして問題や課題を解決する力。

##### ②「自ら考える（思考力）」

「書く」際に、内容を整理したり、まとめたりすることを、自分で考え進められる力。

##### ②「判断する（判断力）」

「書く」際に、相手・目的・意図・状況等に応じて、自分の考え・文章表現・言葉を選択し、決定する力。

##### ②「表現する（表現力）」

「書く」際に、自分の考えを、読む相手にわかりやすい文章で書き表す力。

##### ③「意欲を持つ（学ぶ意欲）」

「書く」際に、進んで取材活動ができる。たくさんの（量・種類）文章を書こうとする。進んで表記や語句の間違いが無いか推敲する。効果的な表現や、言葉を選んで使用する。

これらができるようになった・身についたとするときに、本校では学力がついたと判断していく。

## (2) 意欲的に学ぶとは

どういう状態になった時、子どもたちが「意欲的に学んだ」とするかということについては、上記の「確かな学力」の捉えの③「意欲を持つ（学ぶ意欲）」の部分を研究主題の「意欲的に学ぶ子ども」像としていく。

昨年度（1年次）から研究主題の中に使用されている「確かな学力」「意欲的に学ぶ」という語句であるが、研究初年度では「確かな学力」の捉えが、「基礎・基本」が主になっていた。そして、複数の教科を研究し、実践を進めていくことで、学力（狭義の意味での学力）が上がり、学習意欲全般の意味での「意欲的に学ぶ…」と考えていた。しかし今年度は国語科だけにしぼり、「意欲的に学ぶ」という状態は、国語科「書くこと」の指導における「学ぶ意欲」としていく。

## 4. 研究目標

国語科において、「書く力」を高める授業作りをするために、児童が意欲的に学習していく指導のあり方を明らかにする。

## 5. 研究仮説

国語科において、本校児童に身につけさせたい力に対する有効性が期待できる手立てを発掘・開発あるいは改良し、それらを「書くこと」に関する指導課程に位置付け、授業を行うことで、児童の「書く力」は向上し、意欲的に学ぶようになるであろう。

## 6. 研究内容

(1)「書くこと」の学習過程に沿った指導方法（手立て）を各学年（各ブロック毎）で考える。

新学習指導要領解説国語編では、学習過程が明確に記されている。

**「書くこと」の領域を構成する5段階の学習過程**（文章を書くために必要な技能）

- ① **課題設定や取材**（必要な事項を集めることができる技能）
- ② **構成**（文章全体の構成の効果を考えることができる技能）
- ③ **記述**（意見が伝わるように書くことができる技能・言葉や文，段落の続け方に注意してまとまりのある文章を書くための機能）
- ④ **推敲**（表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができる機能）
- ⑤ **交流**（表現の仕方に着目して助言しあうことができる技能）

これらの学習過程の中で、効果的な指導方法（効果的な手立て）を考えていく。これらは、国語の授業の中に位置づけて「書くこと」の力を伸ばしていくために工夫していく。（研究授業として行っていく部分）

### 【授業の手立てとして考えられるもの例】

- ①課題設定や取材（ウェビング・取材メモの取り方、書き方・事実と意見を整理するためのワークシート）
- ②構成（段落構成メモ・作文の魚）
- ③記述（主語述語の掟・文法ヒントカード・文末表現早わかり表・書き出しの工夫色々集・記述簡単ワークシート）
- ④推敲（見直し早見表・推敲が簡単になる原稿用紙・グループ推敲の仕方・直し名人になろう）
- ⑤交流（付箋紙の活用・良いところ探しカード・朝のスピーチで作品発表会）

### （2）「書くこと」に役立つ日常的に行える学習活動の考案

「基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けること」に関わる部分であり、授業での効果的な指導方法（効果的な手立て）を生かすために日常的に行っていく学習活動。

#### 【日常の手立てとして考えられるもの例】

- ①意味調べリレー
  - ②朝のスピーチ
  - ③週末作文
  - ④漢字がんばりカード
- 等々各ブロック毎に活動内容を考え実践していく。

### （3）児童の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら児童の学習習慣を確立するための方策の考案

生活実態調査からも明らかになった、本校児童の特徴として挙げられる、学習の基盤となる「生活面での課題点克服」として、家庭学習の習慣をつけるための手立てを考案する。

#### 【考えられるもの例】

- ①家庭学習の手引きの配布、②家庭学習記録カードの作成等

## **7. 研究方法**

- ①実態調査・意識調査の実施  
「書くこと」に対する意識や、学習に関係すると思われる生活実態の調査
- ②理論研究  
指導主事を招聘し学習会を行い、研究の方向性や、研究理論、研究の進め方の妥当性について学ぶ。
- ③発達段階に即した手立ての探索  
・児童に身につけさせたい書くことの能力を明確にすることの具体化  
（書くことの能力系統表作成）

- ・ 育成すべき能力を身に付けさせるための指導課程を構想することの具体化  
(発達段階に応じた手立ての探索)

④ 学習習慣確立のための啓発活動

⑤ 研究授業による仮説の検証

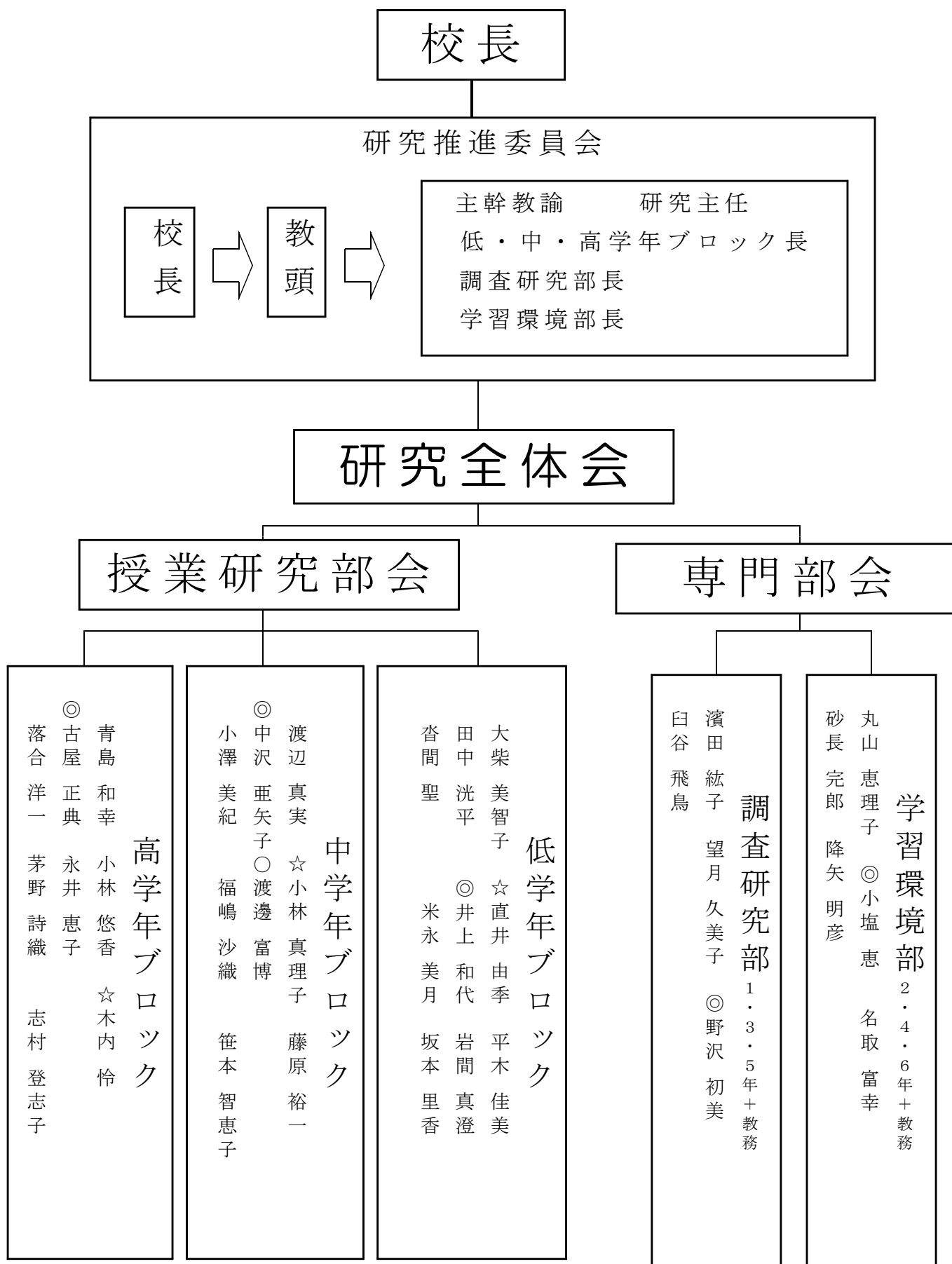
⑥ 研究のまとめ

## 8. 研究計画

研究会名	開催日	主な形態	主な研究・活動内容
第1回校内研究会	4 / 1 3	全体研	○ 昨年までの校内研究の概要と今年度の校内研究の方向性について
第1回研究推進委員会	5 / 1 8	推進委員会	○ 今年度の方向性について ・ 研究の概要（研究主題，副主題，研究計画，研究組織等）
第2回校内研究会	5 / 2 2	全体研	○ 今年度の研究について ・ 研究の概要（研究主題，副主題，研究計画，研究組織等）
第3回校内研究会	6 / 8	全体研	○ 今年度の研究について ・ 研究の概要（授業研に関わっての基本的な考え方・学習習慣作りについての大まかな方向性）
第4回校内研究会	7 / 2 4	全体研後	○ 指導主事を招聘しての学習会
第5回校内研究会	8 / 1 7	全体研後 ブロック 毎 WG	○ 教育課程環流報告会 ○ ブロック毎 WG 毎の活動 ・ 指導案づくり ・ 啓発資料作成等
第6回校内研究会	9 / 4	全体研後 ブロック 毎 WG	○ 今後の研究日程の確認 ・ 指導案づくり ・ 啓発資料作成
第2回研究推進委員会	9 / 1 4	推進委員会	○ 今後の取り組みについて確認すること ○ 各部会より活動報告と今後の予定 ○ 研究授業時の役割について

第7回校内研究会	10/5	全体研	○指導案検討（低学年ブロック）
第8回校内研究会	10/21	研究授業	○研究授業①（低学年ブロック） ・指導主事招聘
第9回校内研究会	11/2	全体研	○指導案検討（中学年ブロック）
第10回校内研究会	11/17	研究授業	○研究授業②（中学年ブロック） ・指導主事招聘
第11回校内研究会	12/7	研究授業	○研究授業③（高学年ブロック） ・指導主事招聘
第12回校内研究会	1/20	全体研	○研究のまとめについて ・職員アンケートについて・各部会の反省について
第13回校内研究会	2/15	全体研	○研究のまとめと来年度の方向性について

9. 研究組織



◎ブロック長

○副ブロック長

☆授業者